

着任挨拶



○看護科長 工藤 明子 (くどう あきこ)

皆さん、こんにちは。4月1日付で、看護科長に着任しました工藤明子です。昨年度までの2年間は多摩総合医療センター看護部で勤務しました。療育センターは、同じ多摩メディカルキャンパス内ではありますが、緑が多く、季節を感じる事ができ、うれしく思っています。



今年度看護科は、新人看護職員9名、転入者(派遣交流含む)4名、歯科衛生士1名の新しい仲間を迎えスタートしました。

年度当初の幹部会で、伊藤院長より、「今年度は、新センターに移転して5年目、成長期を迎える年」とのお話がありました。これまで同様、利用者の方々の療育環境の整備に加え、看護師の業務負担や職員を取り巻く環境にも着目し、皆さんと協力しながらステップアップしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務次長 高野 祐子 (たかの ゆうこ)

4月1日付で事務室次長に着任しました高野祐子と申します。前職は、障害者施策推進部の心身障害者福祉センターでした。

府中療育センターは、多職種の方々がそれぞれの役割を担い、生き生きと働き、地域に貢献している職場だと思っております。このような職場の一員となれたことにワクワクしています。療育分野は初めてで知らないことばかりですが、これまで経験した心障センターや看護学校との繋がりを感じています。

早く新しい環境に慣れて、少しでもお役に立てるよう、頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042(323)5115
FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧ください*-*-*

<http://www.fukushi.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第556号 発行日 令和6年4月30日

着任挨拶



○院長 伊藤 昌弘 (いとう まさひろ)

令和6年4月より院長を拝命いたしました伊藤昌弘です。私は平成30年4月に副院長として赴任し、多摩療育園と旧府中療育センターの統合・移転や新センターとしての運営に関わることができ大変光栄に思っております。新センターでは、建物が新しくなるだけでなく構造的変化や電子カルテなどシステムの大幅な変更などで、まだまだ改善の余地があると思っています。

また、移転当初は新型コロナウイルス感染症の始まりであり、この4年間にはかつてない感染対策で、私たちの最も必要な人とのコミュニケーションが難しい時期となってしまいました。令和5年度に新型コロナウイルス感染症は2類から5類へ変更され、世間ではコロナ前に近い状態になっています。しかし私たちは重い障害を有している利用者さんや患者さん、なかには高齢の方もいらっしゃるなど高リスクな方たちを守る立場にあり、まだまだ感染対策は必要です。しかしこのまま停滞している場合ではありません。今までの移行期・感染管理期は、事業という創業期(黎明期)にあたります。これからは成長期、さらにその後は成熟期(安定期)、衰退期となりますが、今まさに成長期として療育センターの運営を進めていきたいと思っております。



幹部と協力しながら院長として病院の運営等の責務を果たし、職員の皆様が楽しく仕事がしやすい療育センターになるよう、全力を尽くしてまいります。もちろん私や幹部だけでは実現は難しく、職員の皆様方のご協力が必要ですので何卒よろしくお願いいたします。

皆様方のご協力が必要ですので何卒よろしくお願いいたします。



退任挨拶

○前院長 澁谷 和彦（しぶや かずひこ）

私が着任したのは、2020年4月1日、2か月後に多摩療育園と旧府中療育センターの統合と新しい施設への移転が迫っていました。また、海外から持ち込まれた新型コロナウイルス感染症の流行が国内にて騒がれ始めた頃でもありました。さらに、電子カルテを新たに導入するという大変な事柄が幾つも重なりましたが、旧2施設の全職員が何年もかけて入念に準備をしてきたお蔭で無事に移転を成功させることができました。

そして、新しい府中療育センターにおける4年間、これまで誰も経験したことのないコロナ禍という困難な状況下でありながら、全職員が力を合わせて当施設の使命を果たして参りました。勿論、毎年開催されたセンター祭りなど楽しい思い出も沢山あります。全ての職員の方々に心より感謝申し上げます。

この度、私は65歳の定年を迎えました。40年間に渡る勤務を振り返りながら、少しゆっくりしたいと思っております。皆様、本当にありがとうございました。



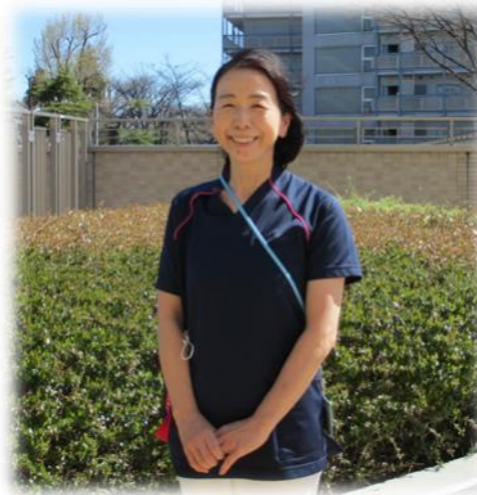
○前看護科長 杉田 弓子（すぎた ゆみこ）

4年間大変お世話になり、ありがとうございました。

令和2年5月の移転では晴天に恵まれ、利用者さんもハイキングに行くかのようにとても素敵な笑顔で出発されたのを鮮明に覚えています。その後は新型コロナウイルス感染症対応に迫られました。感染対策の強化が図られ、利用者さんを護るべく自身の健康管理はもちろんのこと、家族の健康管理、体調不良時の申告の徹底、利用者さん体調不良時の隔離の徹底、応援体制など、身を削る思いで職員が一丸となって取組めたことは、さすが府中療育センターだと思いました。感謝の気持ちでいっぱいです。

楽しいこともたくさんありました。リモート面会での利用者さんの満面の笑顔は忘れられません。面会制限の時には、利用者さんの近況報告を写真にしたため真心を込めたご家族へのお手紙の送付。思い出は尽きませんが、お互いの顔が見える皆さんと一緒に過ごすことができたことは私の大きな財産になりました。

小児総合医療センターでは府中療育センターとのパイプ役になれるよう努めていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。



着任挨拶

○副院長 田沼 直之（たぬま なおゆき）

4月1日付で副院長に就任いたしました田沼直之です。当センターに着任したのは1997年10月ですので、26年半前になります。これまで医師として5つの病棟を担当してきました。府中療育センターの皆様にて育てていただいたといっても過言ではありません。

この間に旧センターの改築や新センターへの移転も経験し、現在に至っております。また伊藤新院長は私が医師1年目の研修医時代の指導医でした。小児神経学を志すきっかけになった先生であり、不思議なご縁を感じます。

書家の金澤翔子さんが「共に生きる」とよくお書きになっていますが、私はこの言葉が大好きです。府中療育センターの利用者の皆様が障害と共に生きる。私たち職員は利用者の皆様やご家族に寄り添いながら共に生きる。職員同士も仕事を通じて共に生きる。利用者・ご家族・職員が一体となって府中療育センターがさらに発展していけるように尽力したいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。



退任挨拶

○前事務次長 繁田 直文（はんだ なおふみ）

令和4年4月から事務次長としてお世話になり、3月末で退職いたしました。都職員としての37年間の最後に、都立の重症心身障害児者施設として重要な使命と役割を担っている府中療育センターで勤務できたことに大変感謝しております。センターでの勤務は、利用者・患者に寄り添う質の高い療育・医療サービスを提供するため、利用者のニーズへの適切な対応、院内感染対策、医療安全対策、職場の安全衛生など様々な課題への対応など、やりがいと誇りを感じるとともに、緊張感のある毎日でした。

おかげさまで、院長をはじめ職員や分会の皆様、御家族の皆様への御指導、御協力をいただき、微力ながら2年間なんとか務めを果たせた気がします。改めて御礼申し上げます。最後になりますが、今後のセンターの更なる発展と皆様のご健康を祈念しております。

